

第 2 次
飯田市中山間地域振興計画
後期の取組（案）

平成 31 年（2019 年） 3 月

令和 4 年（2022 年） 4 月 1 日 追加

令和 8 年（2026 年） 4 月 1 日 追加

長野県飯田市

目 次

第1章 第2次飯田市中山間地域振興計画について

- 1 計画策定趣旨
- 2 計画の構成と計画期間
- 3 後期の取組策定の趣旨

第2章 第2次中山間地域振興計画により目指す方向

- 1 中山間地域振興の基本理念
 - (1) 中山間地域らしい、中山間地域だからできる暮らし方を実現する
 - (2) 空間を守り、これからの地域づくりにつなげる
 - (3) 潜在的な力を掘り起し、地域の強みを活かした交流を進める
 - (4) 地域に関わる部分＝「関わりしろ」のある地域を目指す
 - (5) 暮らしを支える基盤と生活環境の整備に取り組む
 - (6) 地域と行政が協働して取り組む
- 2 基本方針
 - (1) 現在住んでいる住民が誇りと愛着を持って住み続ける地域づくり
 - (2) 中山間地域の営みを活かした起業（産業）展開から広がる地域づくり
 - (3) 地域の魅力と資源を活かして交流を促進し、関係人口を増やす地域づくり
 - (4) 地域外からの移住者を増やし、ともに未来を拓く地域づくり
 - (5) チャレンジから生まれる次世代につなぐ地域づくり
- 3 この計画により目指す10年後の姿

第3章 後期3年間の取組

- 1 中期の振り返り
- 2 今後の動き・新たな視点
- 3 取り組むべき課題
- 4 後期の基本的方向及び重点取組
 - (1) 関係人口から定住人口へつながる取組
 - (2) 自分自身が地域への愛着と誇りを持ち、地元出身者が戻ってくる取組
 - (3) 中山間地域における「住まい」を確保する取組
 - (4) 中山間地域の魅力を生かした暮らしを实践する取組
 - (5) 中山間地域の資源を生かした経済が循環する取組
 - (6) 中山間地域で情報共有し、横断・連携する事業展開
- 5 各地区の取組
- 6 後期におけるそれぞれの役割

第1章 第2次飯田市中山間地域振興計画について

1 計画策定趣旨

中山間地域は自然豊かな山や川、田園が広がる景観が魅力の地域であると同時に、地域住民の「生活の場」でもあり、人々が中山間地域で生活を営みながら地域を保全し、生産活動を継続することにより、安全・安心な農林産物の供給をはじめ、森林や水田の保水機能による国土の保全や水源のかん養、更には森林による大気の浄化や地球温暖化防止等の「環境の保全」など多面的で重要な機能を担っています。

また、先人たちから伝統文化が脈々と受け継がれ、文化的な観点からも将来に引き継ぐべき大切な財産を有している地域となります。

特に今次の計画期間においては、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道整備に伴うアクセス道路など社会状況の変化が進み、交通・流通だけではなく人の流れの変化も起きてくる時代を迎えます。

しかしその一方で、人口の減少、高齢化の急速な進行により、地域づくりの担い手不足、生活環境の悪化、地域の基幹産業である農林業の低迷などから、集落単位での活動を継続することが困難となる地域が生じるおそれがあり、厳しい局面を迎えることも危惧されます。

この様な中で、住む人々が地域に誇りと愛着を抱いて心豊かに暮らし、地域外の人とのつながりを広げながら人財となり得る人を呼び込み、新たな活力を創り出し、次世代へとつながる地域を目指していくため、第2次中山間地域振興計画を令和元年度(2019年度)に策定しました。

2 計画の構成と計画期間

第2次飯田市中山間地域振興計画の計画期間は、令和元年(2019)年度から令和10(2028)年度までの10年間です。これは、市の総合計画である「いいだ未来デザイン2028」の分野別計画としての位置付けを持ち、また各地区で策定された地区基本構想との連携を図り進めていくためです。

計画では、6つの基本理念と計画期間中に重点的に取り組む5つの基本方針を定めて、持続可能な地域づくりを目指し、地域との関係性から移住・定住へつなげていくことに特化した計画として位置付け、交通・医療・子育てといった地域住民が不安に感じている課題は、各種分野別計画との連携により取り組むこととしています。

また、「いいだ未来デザイン2028」や関連する計画の改定、社会経済情勢の変化、地域づくりの進捗状況などに応じて、10年間の計画期間を前期・中期・後期に分け、それぞれの期ごとに、その時の課題や社会情勢に対応した目標と重点取組を定めることとしました。

3 後期の取組策定の趣旨

今回の計画は、中期の取組状況や今後の動き、新たな視点などを踏まえ、後期（3年間）の重点取組を策定するものです。

前期(2019～2021年)においては、地域の資源を活用した地域内外の関係人口を増やし、「移住・定住」につなげていくための土台づくりとして取組を進めましたが、期間中に新型コロナウイルス感染症の影響により様々な事業が中止又は延期されるなど、その取組に支障が生じました。

中期（2022～2025年）においては、前期において新型コロナウイルス感染症の影響により様々な取組ができなかった状況を踏まえ、「交流人口及び関係人口の創出・拡大」と、「移住定住の推進」を中期の重点的取組の2つの柱として取組を進めました。

このため、今回の計画は中期の振り返りと社会情勢、今後の動き、地域の取組状況などを踏まえ、後期3年間の取組として策定します。

※計画期間を図に示すと以下のとおりとなります。

中山間地域振興計画の基本理念・基本方針（10年間） 「住む人々が心豊かで暮らし、地域内外の人とのつながりを持てる地域」		
前期（3年）2019～2021年 重点取組	中期（4年）2022～2025年 重点取組	後期（3年）2026～2028年 重点取組
関係人口の構築と移住・定住に向けた動きにつなげていくための土台づくり	交流人口及び関係人口の創出・拡大と移住・定住の推進	※社会情勢や中期の取組を踏まえ策定

○移住の状況

人口減少に歯止めをかけ、地域活力を維持・向上させていく上で重要な移住定住の促進に向けた取組を組織横断的に、かつ機動力をもって推進するため、結いターン移住定住推進課を設置しています。

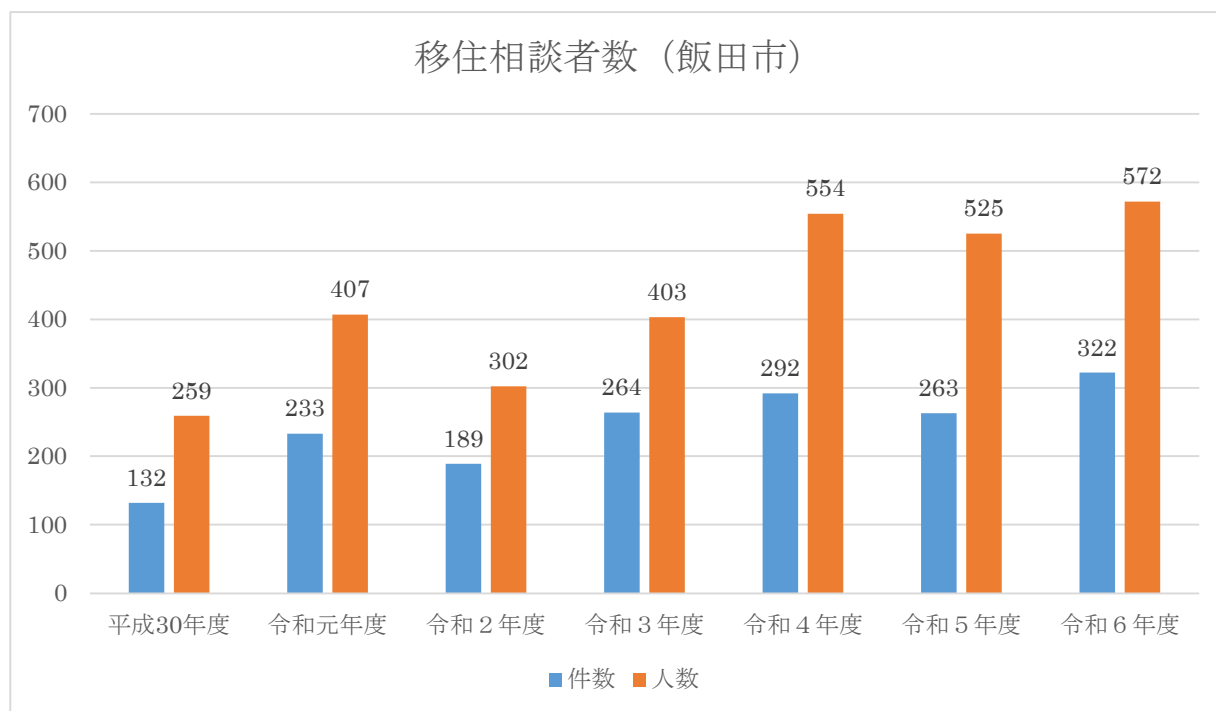
飯田市では、都市部で生活している若者と子育て世代を重点対象に、多様な情報発信と、住・職・暮らしに関するきめ細かなオーダーメイド型の相談支援を行い、令和4年度は119人、令和5年度は127人、令和6年度では145人が移住されています。うち30～40代を中心とした子育て世帯が約6割を占めています。

移住には、「住まい」「仕事」「暮らし」が決め手になることから、空き家の掘り起こし、事業者と連携した職業紹介、移住後の暮らしの紹介などを地域と連携しながら進めており、中山間地域にも中期3年間（令和4～6年度）で54の方が移住されました。

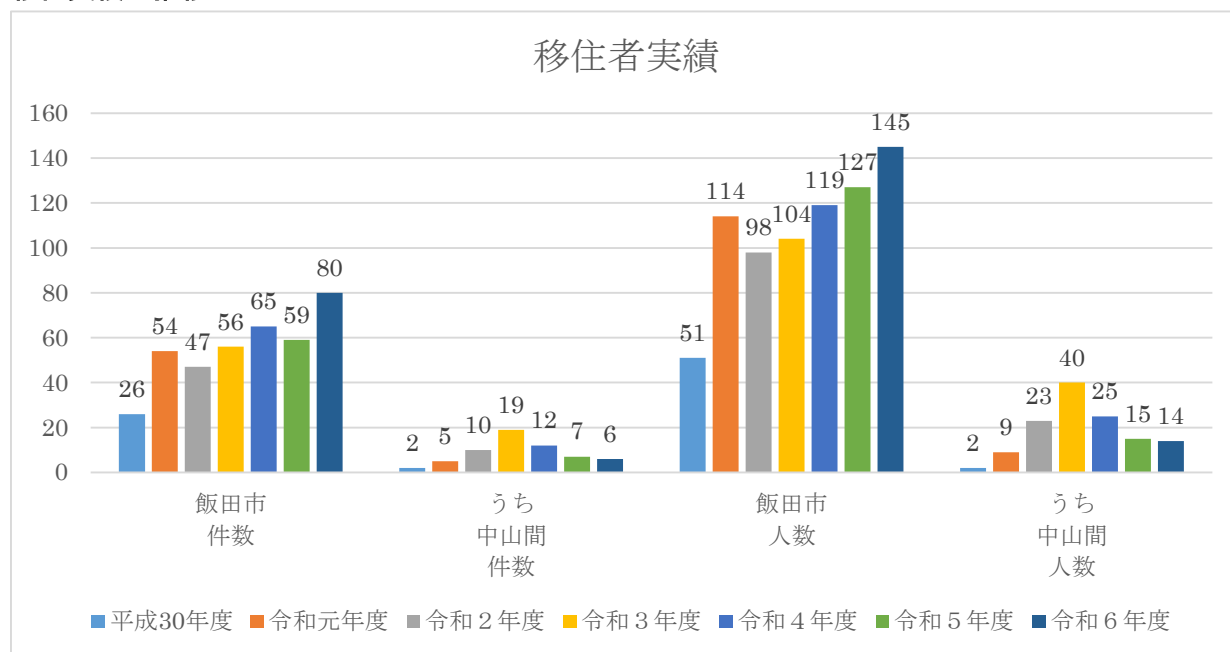
また、地域と行政が協働し、地域資源を活用した魅力ある地域づくりに取り組むことで、関係人口の創出・拡大から移住定住の促進を進めるとともに、各地区で策定されている基本構想・基本計画の推進や、長期的な人口安定化に向けた「20地区田舎へ還ろう戦略」に取り組んでいます。

働き方や暮らし方に対する価値観の変化が生じ、地方移住を暮らしの一つの選択肢として考える移住希望者の相談が今後も増えることが想定されることから、この流れをしっかりと捉え、地域や関係機関と情報を共有し、連携を図ることが重要です。

移住相談者数の推移



移住実績の推移



第2章 第2次中山間地域振興計画により目指す方向

本計画は、中山間地域における今後の社会変化の中で、住む人々が地域に誇りと愛着を抱き、心豊かに暮らし、地域外の人とのつながりを広げながら、新たな活動を創り出し、次世代へとつながる地域を目指していくための計画として策定しています。

中山間振興の6つの基本理念と計画期間中に重点的に取り組む5つの基本方針を踏まえ、前期・中期・後期の取組を策定します。

1 中山間地域振興の基本理念 ～将来にわたり持続可能な地域を目指して～

(1) 中山間地域らしい、中山間地域だからできる暮らし方を実現する

中山間地域には、「自然と共に生きる暮らし」「人と人が見える暮らし」など地域の特徴を活かした様々なライフスタイルが描ける場所があります。

地域の良さに気づき、それを高めあう、「ここでしかできない、ここだからできる暮らし方」の実現に向け取り組みます。

(2) 空間を守り、これからの地域づくりにつなげる

中山間地域には美しい農村景観が保たれています。この景観は、自然が生み出しただけでなく、農地や山林を守り続けてきた先人たちの営みやそこに人々が暮らし続けてきたことにより作り出されています。その様な「景観」と「営み」の中で作られている時間をプラスした「空間」づくりを進め、次世代につなげていきます。

(3) 潜在的な力を掘り起し、地域の強みを活かした交流を進める

住んでいる人には気づかない、外から訪れた人だから気づく地域の魅力がまだまだ隠されています。地域の強みを活かし、潜在的な力を引出し、これらを軸にした交流を進めます。

(4) 地域に関わる部分＝「関わりしろ」のある地域を目指す

地域は多くの人とのつながりの中で様々な活動が行われています。地域に住む人が、自らの地域を自分ごととして捉えられるには、地域に関わる部分＝「関わりしろ」を作ることが大切です。今住んでいる人、これから住む人それぞれに、地域へ関われる「関わりしろ」のある地域を目指します。

(5) 暮らしを支える基盤と生活環境の整備に取り組む

持続可能な地域を維持していくために、住民生活に密接に関係する生活基盤や環境整備は必要不可欠な要素となります。飯田市で定めた各種計画と連携をしながら事業推進を図ります。

(6) 地域と行政が協働して取り組む

各地区の基本構想や地域づくりの目標と連動して、地域と飯田市が同じ目標に向かって地域づくりを行います。地域や住民が主体的に地域づくりを担う取組に対して、飯田市も一緒になって取り組む協働・共生によるまちづくりを進めます。

2 基本方針 ～この10年で重点的に取り組むこと～

中山間地域においては、これまで生活、産業、交流、地域資源など様々な分野に及ぶ取組が行われ一定の成果を上げてきました。しかしながら、高齢化の進行や少子化の影響による人口減少に歯止めがかからない状況です。

一方で、今後リニア中央新幹線や三遠南進自動車道といった交通インフラの整備にともない、移動時間が大幅に短縮されることにより、今までにない人の流れが生まれてくることが予想されます。

このため、人口減少の影響を最小限に留め持続可能な地域づくりに向け、今回の計画においては、今後 10 年間で重点的に取り組むことに特化した計画とし、地域と行政の協働により様々な事業を効果的に展開するよう努めます。

(1) 現在住んでいる住民が誇りと愛着を持って住み続ける地域づくり

今住んでいる人が生き生きと暮らしていることは、地域外から訪れた人にとっても「関わり」を持ちたいといった思いにつながる要素を秘めています。そこに暮らす人々が地域に誇りと愛着を持ち続けられるような環境づくりと、地域内外の人と人とのつながりを高めていく取組を進めます。

また、今後も住み続けていくために必要な生活基盤・環境整備や、地域にある生活課題の解決に向けた取組を協働して進めます。

(2) 中山間地域の営みを活かした起業（産業）展開から広がる地域づくり

中山間地域では、豊富な農山村資源を活用したグリーン・ツーリズム、エコ・ツーリズムなどが展開され、地域内外の交流のきっかけや産業に結びつく取組が行われてきました。地域や集落の点検の中から交流の基となる暮らしを産業につなげる取組と、中山間の特色を活かしたコミュニティビジネスに結びつける取組を進めます。

(3) 地域の魅力と資源を活かして交流を促進し、関係人口を増やす地域づくり

中山間地域には住んでいる人には当たり前に感じ気づいていない潜在的な力を秘めています。地域に住む人たちが、地域の魅力に気づく取組とあわせ、地域外の人にも何度も訪ねてもらえるような交流を行い、関係人口を増やす取組を進めます。

(4) 地域外からの移住者を増やし、ともに未来を拓く地域づくり

どのような人に来てほしいかといったイメージを地域の中で共有し、その様な層をターゲットにした交流を進めていくことが大切です。また、移住者を地域づくりを共に行う仲間として受け入れる意識づくりが必要です。これらを行うために、地域ごとに移住者と今住んでいる人を結ぶ、身近に相談できる人づくりを進めます。

(5) チャレンジから生まれる次世代につなぐ地域づくり

地域に住む人や地域団体、行政、地域とのつながりの中から関わりを持っていてくれる方、これから関係性を共に築ける可能性のある方など、いろいろな人が参加して地域課題に向き合うことで、今までよりたくさんの方の方法を試すことができます。

歴史的にも経験したことのない人口減少社会において、可能性を拓くためのチャレンジを行う中では、様々な壁にぶつかる時もあります。これらの壁も多くの人に関わりの中で乗り越えながら、試行錯誤とチャレンジを繰り返し、次世代に地域をつなぐ取組を進めます。

3 この計画により目指す 10 年後の姿

「住む人々が心豊かで暮らし、地域内外の人とのつながりを持てる地域」

第3章 後期3年間の取組

1 中期の振り返り

中期（2022～2025）においては、重点取組として掲げた交流人口及び関係人口の創出・拡大と、移住定住の推進をめざし、各地区において自然豊かな田園風景、大切にないできた伝統文化など、中山間地域の魅力と資源を活用した取組を7地区それぞれが創意工夫による取組を実施しました。また、地域おこし協力隊の活動や地区を横断した取組、起業家の育成支援や近居・同居支援事業など、それぞれのアプローチから関係人口、移住定住につながる取組を行いました。

○地区が実施する事業への支援

中山間地域振興計画の地区アクションを具現化する取組、移住定住へつなげる取組への支援を行いました。中山間地域において、安心かつ安全な暮らしを実現し、豊かで住みよい地域づくりと定住できる環境づくりを推進することを目的に、まちづくりが実施した取組に対し支援を行いました。各地区の地域資源を活用した取組は、「中山間地域の地域振興に係る事業」や「中山間地域への定住支援に係る事業」に記載した取組のほか、遠山地区の教育移住の取組など、それぞれの地域の魅力を活用した取組を実施しました。

① 中山間地域の地域振興に係る事業（中山間地域振興事業支援補助金）

地 区	取組内容
下久堅	関係人口構築に向けた、ひさかた和紙、TOJ を活用した事業 (ひさかた和紙の商品開発、耕作放棄地の景観美化活動等)
上久堅	地区の魅力発信に向けたホームページ委員会の組織化と広報・情報発信活動 (北田遺跡の保存、神之峰公園整備、HP による情報発信)
千代	よこね田んぼ、親水公園等を活用した関係人口の拡大と地域の魅力発信 (野外音楽ステージの開催、防災学習会)
龍江	自然観光資源を活用した交流人口・関係人口の創出、情報発信 (水辺の楽校、熱気球体験イベント)
三穂	旧小笠原家書院を核とした資源の活用による活性化イベント、HP による魅力発信
上村	自然体験プログラムの構築と実践、SDGS 教育を通じた持続可能なまちづくり の取組と若者や地域住民の集いの場となるような活動拠点づくり
南信濃	南信濃 1500 委員会による「やまざと親子留学」、「保育園ショート留学」等、教育 移住の取組による関係人口の創出と移住定住の推進

② 中山間地域への定住支援に係る事業（中山間地域定住支援補助金）

地 区	取組内容
下久堅	子育て支援（通学路環境整備）、交流拠点「ふれあい交流館」の活用
上久堅	高齢者の生活支援（配食）、子育て環境の施設整備、集落機能の維持支援（地区内ガソリンスタンドの利用促進）
千代	交流人口・関係人口に向けたよこね田んぼ、野池親水公園の環境整備
龍江	関係人口構築に向けたキャンプサイトの環境整備、高齢者定住支援、子育て環境の整備
三穂	高齢者等の交通弱者への支援（公共交通利用支援補助金）、子育て支援（託児事業、動物ふれあい事業）
上村	I Uターン者補助金事業、子育て支援、通学支援、高齢者等への補助
南信濃	※過疎法に基づく支援

○地域おこし協力隊の活動

人口減少や高齢化等の進行が著しい中山間地域において、地域外の人材を積極的に誘致し、その定住及び定着を図り、地域の課題解決に向けた取組や地域の活力の維持・強化につなげるため、地域おこし協力隊が活動を行いました。中期の4年間でのべ9名の地域おこし協力隊が様々な取組を実施しました。

古民家を利活用し、体験プログラムの拠点として関係人口の創出につながった取組や、地元の木材を加工した特産品づくり、先人から受け継いだ地域の伝統文化を守る活動や、子育て世代と協力した地域の魅力発信、若者と共同企画した地域をあげてのイベントの開催など、中山間の地域資源を活用した関係人口の創出・交流人口の拡大に向けた取組を行いました。また、協力隊と地域が一体となり、空き家の掘り起こしと移住希望者のマッチングを積極的に進め、空き家の解消につながった取組も行いました。

地域おこし協力隊は、原則3年間の任期ですが、任期終了後、退任した隊員の多くがその後も活動地域に定住し、引き続き地域の活動に参加しています。

（中期の取組における地域おこし協力隊の活動）

地区	活動内容
上村 (1名)	空き家を活用した食事・宿泊・体験施設を拠点とする交流人口の拡大と関係人口の創出
龍江 (3名)	空き地を活用したキャンプサイトを開設し地域資源の魅力発信と関係人口の創出
	農業と醤油づくりを通じた関係人口の創出
	竹林整備活動による関係人口の創出と体験プログラムの企画、実施
上久堅 (1名)	農業等を通じた地域の魅力発信と空き家の解消（18件）

地区	活動内容
下久堅 (2名)	ひさかた和紙を活用した商品開発による産業おこし、空き家の掘り起こし
	空き家（施設）を活用し、企業及び子どもをターゲットとした関係人口の創出
南信濃 (2名)	空き家を取得し、地域の木材を使った製品販売の起業、地域イベントの企画・運営
	各種団体と連携した南アルプス等山の魅力発信とイベント等を通じた関係人口の創出

○地区を横断した取組

遠山郷2地区では少人数だからこそ可能な教育を目指し、自然体験プログラムや親子留学、保育園ショート留学を中期計画の取組からスタートさせ、親子留学では7組（29名）の親子、保育園ショート留学では26組（81名）の親子の受け入れを行いました。また、短期滞在となる保育園ショート留学をきっかけに、長期的な滞在となる親子留学へつながった取組も生まれました。

竜東4地区では、産業・道路環境などの変化する社会情勢への対応を目的とした合同研修の実施や関係団体との情報共有に継続的に取り組み、共同制作によるパンフレットを活用しながら竜東エリアとして魅力を発信するなど、竜東4地区が知恵と工夫を結集し、一体的な取組を実施しました。

中期の取組では、同じ課題等を抱える中山間地域の各地区が協力・連携し、各地区が得意とする分野を伸ばしながら、地区を横断した取組が展開されました。

○農村起業家の育成

地域にある資源の掘り起こしにより、中山間地域だからできる産業おこし（コミュニティビジネス）につなげ、地域での仕事の創出から移住定住や交流の促進を図ることを目的に農村起業家育成スクールを実施しました。中期3年間（令和4～6年度）で20名が受講しました。

地域資源を活用したビジネスモデルとして、空き家を改修した一棟貸しの古民家宿や地元の果物を活用した商品開発、木材を活用した加工品の販売など、7名が中山間地域の魅力を活用した具体的な事業に着手しました。また、受講生同士が有機的につながり、連携による新たな事業を展開する動きも生まれています。引き続き、中山間地域にある資源を活用した起業家育成の取組を進めていくことが重要です。

○空き家の解消に向けた取組

各地区において、空き家の課題に対し利活用可能な空き家の洗い出しや入居希望者とマッチングを実施するなど解消に向けた取組を進めました。上久堅地区では、地域おこし協力隊と地域が連携し、空き家解消を目的とした特別委員会を立ち上げ、地域内の空き家の掘り起こしと移住希望者とのマッチングを行うことで、解体6件、移住12件の

合計 18 件の空き家の解消につながりました。協力隊退任後も地域が主体となって継続して取り組んでいます。

この上久堅地区の取組を中山間地域で情報共有を行い、効果的な仕組みとして他地域が新たに取り組み始めるといった横展開が生まれました。

○近居・同居支援事業

次世代が中山間地域に暮らし、または再び地元へ戻り、将来にわたり中山間地域を生活の本拠とすることで地域の担い手の確保と持続可能な地域をめざしていくため、父母または祖父母世帯と近居または同居する子育て世代を対象に、建物を新築・増築・リフォームに対し、住宅支援を行いました。これまでの中期の取組の 4 年間で、19 世帯が近居・同居により中山間地域へ定住しました。

これらの取組により、中期の取組 3 年間（令和 4～6 年度）で、中山間地域への移住者は 54 人となりました。中期の計画では「田舎へ還ろう戦略により 4 年間で 5 人以上の移住者の実現」を目標に掲げましたが、7 地区のうち 6 地区が実現しました。移住者の多くは地域との良好な関係を築き、地域に溶け込んでいます。また、新たな交流プログラムの構築の目標数を 7 つ掲げ、千代地区のよこね田んぼを活用した交流事業、上村地区の大豆から味噌をつくるプロジェクト、南信濃地区の保育園ショート留学、やまざと親子留学の実施といった、新たな交流プログラムが 3 つ生まれました。

各地区が様々な取組を実施したことで、新たな仕組みとなるモデルの構築や中山間地域だからこそ資源を生かした事業につながり、関係人口の創出や移住の推進につながりました。また、農村資源を活用し地域の拠点となるような取組も生まれてきています。

しかしながら、中期の取組を実施したものの依然として中山間地域における人口減少に歯止めがかかっていないのが現状です。人口減少は地域の担い手不足に直結します。また、コミュニティの活力の低下、若者や子育て世帯の流出、空き家の増加などの課題が深刻化しています。

本計画では、各地区の人口分析による人口動態を改めて捉え、加速的に変化する社会情勢や、地域の実情に対応した新たな視点による「人口の安定化」に向けた取組が必要です。

2 今後の動き・新たな視点

飯田市内の 20 地区において各地区の基本構想・基本計画の推進とともに、地区、地域同士がつながり連携する取組や、地区ごとに人口の安定化を図る「20 地区田舎へ還ろう戦略」においても、関係人口の創出や移住定住の推進に取り組んでいます。都市のニーズを取り込みながら人と人、人と地域とがつながる関係人口を創出し、「移住から定住」につながる取組を強化するとともに、住む人々が自分らしく楽しく暮らし、その思いが子ども達や外へ伝わる地域を目指すことで住みたいと思える新たな「定住からつながる移住」の視点が大切となっています。また、藤山浩氏の「人口の数は人生の数」の言葉の

とおり、一人一人が地域と関わり、思いを実現できる視点、ここで暮らすことが誇りだと思える視点も捉えながら関係人口づくりを進め、地域の担い手づくりにつなげていきます。

また、飯田市では、令和7年度から「いいだ未来デザイン2028 後期計画」として定め、基本目標の1つに「市民が将来にわたり地域に誇りと愛着を持てるまちをつくる」を掲げています。この計画の中で「地域資源を次世代につなぐ視点」、「自分らしい暮らしをつむぐ視点」、「豊かさ、働きがいを感じられる地域をつくる視点」、「人々がつどい、活躍できる視点」の4つの視点を大切な視点として捉えています。

さらに、社会情勢により変容する価値観や生活スタイルの変化により、定住しない暮らし方、二地域居住や多地域拠点での暮らし方、人とのつながりを大切にする暮らし方、環境を中心とした暮らし方など、様々なライフスタイルが実現できる、可能となる視点も重要です。

これらの視点は、すべて「人」が中心であり、ここで暮らす人々やこの地域に関わる人々に寄り添った視点も大切です。

3 取り組むべき課題

中期においては、新型コロナウイルス感染症の影響により前期に実践できなかった都市部等との関係人口の創出に向けた土台づくりと並行し、地方移住志向の高まりをチャンスと捉え、移住・定住を推進してきました。しかしながら、中期の取組により一定の効果はあるものの、人口減少に歯止めがかかっておらず、様々な課題が深刻化しています。

令和2年から令和7年までの飯田市の人口増減率を見ると、飯田市全体が△5.8%に対し、中山間地域においては△12.6%となっており、特にここ3年間を見ると約1,000人の人口減少がみられ、加速度的に進んでいます。人口減少による担い手不足や空き家の増加など顕著に現れています。そこで、人口の社会減への対応が急務です。

地区ごとに人口の安定化を図るため、より密接に地域と連携しながら取り組む移住定住の推進、関係人口や移住のきっかけづくりとなる都市間交流の機会が少ないことへの対応、生活スタイルの変化等による多様なライフスタイルへの対応、賃貸住宅や活用可能な空き家が少ないため移住希望者のニーズに対応できていない「住まい」の確保への対応、地域に戻ってくる地元出身者が少ないことへの対応を課題と捉え、重点的に取組を実施します。

4 後期の基本的方向性及び重点取組

本計画では、これまでの振り返りと今後の動き、新たな視点、取り組むべき課題を踏まえ、「交流人口及び関係人口の創出・拡大」と「移住定住の推進」に取り組めます。

地域への誇りと愛着を持ち、地域で暮らす取組と、関係人口から移住定住へつながる取組、定住から移住につながる取組、一旦外に出ても地域に戻ってくる取組など、地区ごとの人口安定化に向けて取り組む「20 地区田舎へ還ろう戦略」の推進を基本的方向性とし、具体的に次の6つの取組を重点的に進めます。

(1) 関係人口から定住人口へつながる取組

【考え方】

- ・交流人口から関係人口、人と人、人と地域のつながりから移住へつながる具体的な取組を進めます。
- ・地域の魅力の情報発信と、住まい・仕事・暮らしに関するきめ細かな相談を地域と連携し支援します。
- ・遠くであっても近くに思える第2のふるさとを目指し、都市と地域のつながりを深める関係人口づくりを進めます。
- ・リニア中央新幹線の開業や三遠南信自動車道の開通を見据え、多様なライフスタイルによる人の流れを創出し、新たな暮らし方や働き方の実現に向けた取組を進めます。
- ・中山間地域における人と人をつなぐための支援を行います。

【具体的な取組】

- 地域と連携し、一人一人に寄り添った移住定住の推進・相談支援
- SNS やウェブサイト等を活用した情報発信
- 中山間地域と都市圏をつなぐ都市間交流
- 中山間地域を舞台とした二地域居住の推進
- 人をつなぐ移住コンシェルジュ

(2) 自分自身が地域への誇りと愛着を持ち、地元出身者が戻ってくる取組

【考え方】

- ・住む人が暮らしの豊かさや愛着、生きがいを持つ地域を目指すとともに、「地域の子どもは地域が育てる」意識を一人一人が持つことで、地域の魅力を再確認し、住み続けたいと思える子育てや教育環境のための取組を進めます。
- ・「Uターン者」の増加に向け、地元出身者が戻ってくる取組を支援します。
- ・生まれ育ったふるさとの良さや活躍の場を再認識できる、戻りたいと思うきっかけにつながる取組を支援します。
- ・地元へ戻ってくる方への住まいの支援を行います。

【具体的な取組】

- 次世代を対象とした教育の取組（地域と学校が連携した学びの機会）
- 地域資源を活用した取組の支援（中山間地域振興・定住支援事業）
- 近居・同居に対する住宅支援

（３）中山間地域における「住まい」を確保する取組

【考え方】

- ・地域や民間と連携し、中山間地域における担い手確保に向け、「住まい」を確保し定住につなげます。
- ・移住希望者がスムーズに暮らしに移行できるよう、中山間地域への住まいの支援を行います。また、地元へ戻ってくる方についても、住まいの支援を行います。
- ・中山間地域の空き家の掘り起こしを行い、住まいの確保につなげます。

【具体的な取組】

- 中山間地域の住まいの確保に向けた支援
- 空き家の利活用に向けた支援
- 近居・同居に対する住宅支援

（４）中山間地域の魅力を生かした暮らしを実践する取組

【考え方】

- ・地域の魅力を活用し、特色ある心豊かな暮らしを体験できるプログラムの実践を支援します。
- ・「顔の見えるコミュニティ」、「文化や祭りを通じた人とのつながり」などの中山間地域での暮らしの実践を支援します。
- ・自然豊かな空間を守りながら、中山間地域だからこそ可能な自分らしい暮らしの実現のため、環境に配慮した循環型の暮らしや、生活環境を整えるための支援を行います。
- ・中山間地域において「農ある暮らし」を実現するため、農業に触れる環境を整えるための支援を進めます。
- ・少人数だからこそ可能な教育を目指し、自然体験プログラムや保育園、小・中学校と連携した体験と学びの機会の提供と情報発信の取組を支援します。中期で取り組んでいるショート留学や親子留学にも取り組みます。

【具体的な取組】

- 地域資源を活用した取組の支援（中山間地域振興・定住支援事業）
- 暮らし体験プログラムへの支援
- 地域資源を活用した地域おこし協力隊の活動
- 農ある暮らしを実現する住まいと並行した農地の利用、確保に向けた支援
- 親子留学の取組の支援
- 保育園ショート留学の取組の支援と横展開の推進

(5) 中山間地域の資源を生かした経済が循環する取組

【考え方】

- ・移住は、「住まい」や「暮らし」だけでなく、「職」も重要となることから、山林や農業など、自然を活用した中山間地域だからできる産業に結びつく取組を支援します。
- ・地域資源を活用した起業家の育成支援と中山間地域の特色を生かしたコミュニティビジネスにつながる取組を進めます。
- ・中山間地域の資源を活用した体験プログラムなどを検討し、地域への観光のみならず関係人口につなげるビジネスも支援していきます。

【具体的な取組】

- 地域資源を生かした新しい価値を生み出す取組の支援
- 農村起業家育成スクールの実施と創業支援
- ツーリズムビジョン(※)と連携した取組

※ツーリズムビジョン…飯田市の自然や文化、伝統や歴史に触れる体験価値の高い観光により、関係人口や地域活性化に向けた取組につなげていくことを目指した計画

(6) 中山間地域で情報共有し、横断・連携する事業展開

【考え方】

- ・各地域の取組を情報共有し、地域資源の活用や人々の暮らしの豊かさを高めながら、地区を横断・連携した取組を進めます。
- ・中山間地域の資源のネットワーク化を図り、関係人口の創出及び移住定住の推進に向けた事業展開を図ります。
- ・地域の課題や取組に応じた専門的な知見を積極的に活用します。

【具体的な取組】

- 中山間地域連絡会議等による情報共有
- 共通課題に向けた研修会の実施
- 地区が連携した取組の支援
- 各地区の取組に対する専門家の派遣（SNSの活用、空き家対策の取組等）

5 方向性を踏まえた各地区の取組

後期の基本的方向性を踏まえ、各地区の具体的な取組を以下の通り実施します。

地 区	具体的な取組内容
下久堅	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ、広報等による地域の魅力発信 ・ 地区内の空き家・空き農地の掘り起こし ・ 景観整備による自然環境の保全 ・ 地域に愛着を持てる教育の取組（小学生による梶曲輪の桜種蒔き） ・ ひさかた和紙の魅力と文化の学び（小学生卒業証書作成） ・ T0J を通じた地域の魅力発信とイベント等による関係人口の創出 ・ ひさかた和紙を活用した体験プログラムと製品開発、販売
上久堅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住者に向けた活用可能な空き家の促進 ・ 活用が難しい空き家の整理と空き地の掘り起こし ・ 神之峰を活用した観光に向けた取組と景観整備
千代	<ul style="list-style-type: none"> ・ よこね田んぼ、野池親水公園、万古溪谷などの地域資源の保存継承と効果的な情報発信 ・ 子育て環境、高齢者福祉の充実 ・ 子どもから大人まで地域資源を活用したイベントの開催、歴史遺産を知る機会による地域に誇りと愛着を持てるふるさと教育の推進 ・ 若者の交流の場、次世代の仲間づくり ・ 移住者（希望者）に対する対応の体制の確立と利用可能な空き家の洗い出しによる移住希望者の住宅確保の支援 ・ 農家民泊の受け入れの推進 ・ 千代ネゴの会など特色ある農業振興事業の支援
龍江	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャンプサイト、水辺の楽校の整備による地域の魅力発信と関係人口の増加 ・ 空き家調査と移住希望者のマッチング ・ 高齢者定住支援と子育て環境の整備を通じた誰もが健康に暮らせる取組 ・ 自然と共存しながら災害に強い地域を目指した取組（防災マニュアルの整備） ・ 助け合い、学び合いを通じた今田人形の保存と伝承による担い手確保
三穂	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧小笠原家書院の整備と魅力の再確認（妹島和世先生の資料展示） ・ 君崎公園・マレットゴルフ場を活用した取組 ・ 離れていても家族制度の導入 ・ 地育力による心豊かな人づくり（三穂人材バンク） ・ 伝統文化の継承支援 ・ 市民農園を活用した消費者との交流の場の創出 ・ 空き家を利用したサロンの開設に向けたサポート

地 区	具体的な取組内容
上村	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で支える子育て支援、若者定住事業の推進 ・保育・教育移住及び関係人口の創出取組の推進 ・自然環境の保全取組の推進 ・自然体験を通じた都市部との交流促進
南信濃	<ul style="list-style-type: none"> ・教育移住の推進（山村留学及び移住体験プログラムの実施） ・地域住民の暮らしの充実を図る展開 ・地元出身者への情報発信とUターン施策の展開 ・遠山郷の暮らしと移住に関する情報発信

6 後期におけるそれぞれの役割

（１）地域及び住民の役割

地域の実情や特性に応じた個性豊かな地域づくりを展開していくためには、暮らす人々が自らの住む地域に関心を持ち、「自分事」として意識しながら主体的に活動を行っていく役割が求められます。まちづくりに進んで参加する「ムトス」の精神により、地域の将来を共有し、互いの活動を尊重し合いながら、より良い地域づくりに向け積極的に参加・協力していきます。

（２）関係団体等と連携による役割

農業協同組合、商工会議所、観光公社、NPO法人などの関係団体等とは、引き続き行政やまちづくり委員会、団体相互、住民等との連携を図りながら、地域の活性化に取り組むために密接に協議・協力していきます。また、地域の課題解決や振興のための新たな団体を設立する場合も、その段階から行政や地域と連携します。

（３）飯田市の役割

中山間地域の個性的で魅力ある地域づくりを推進するために、地域との協働により地域の実態を適確に把握することに努め、住民の主体的な取組の誘導や人材育成のための支援を行います。計画の推進に当たっては、まちづくり委員会をはじめ、関係団体や民間事業者といった多様な主体との連携を図りながら具体的な移住定住施策を行います。

中山間地域振興のため、関係部局の連携を密にし、着実な事業推進を図るとともに、他の市町村との連携、協力を図りながら、広域的で効果的な地域活性化策を推進します。

また、中山間地域の活性化に関する対策や制度の充実・強化、広域的な基盤及び施設等の整備、モデル的な取組に対する実践及び支援などを国や県と連携し実施します。